

聴覚障がい者への情報保障



『緊急時』に嬉しい配慮って

監修/森本 行雄(手話通訳士 国学院大学講師)

企画/「聴覚障がい者の情報保障『緊急時』に困ることって?」プロジェクト委員会

協力/株式会社ミライロ

制作/NPO法人 MAMIE (マミー)

はじめに

聴覚障がい者は20人に1人

音声聞き取りづらかったり、聞こえない障害があるのが聴覚障がい者です。生いたちやその環境により個人差の大きい障害です。コミュニケーションの方法によっては、日本語ではうまく伝わらないこともあります。そのため、普段でも情報の入手に困難が生じることから、「コミュニケーション障がい者」「情報障がい者」と呼ばれることがあります。

我が国はもう高齢化社会。耳が遠くなった人々が数多くいます。WHO（世界保健機関）の推計によると、全世界で4億7千万人、我が国では550万人としています（2018年3月3日 日本経済新聞電子版）。

嬉しい配慮が増えています

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、聴覚障がい者がどんなことに困っているのかについて、日頃から福祉の推進にご尽力いただいている行政の方々や、多くの方々にご理解いただくための冊子を作ろうと「聴覚障がい者の情報保障『緊急時』に困ることって？」のプロジェクト委員会を設けました。

その中では大変さだけでなく、理解が進み聴覚障がい者にもわかりやすい事例を聞くようになりました。

そこで、そのような好事例を「嬉しい配慮」として紹介し、さらに広がっていくことを願い、聴覚障がい者の立場で冊子としてまとめました。イラストを多用しわかりやすくまとめました。聴覚障害がある人への対応の際や、高齢で耳が不自由になった方々に接する際に、ご活用いただきますようお願いいたします。

広く伝えることを願って

私たちは、この冊子を通じて必要で嬉しい配慮が、聴覚障がい者にも十分に伝わることを願っています。

2020年6月 「聴覚障がい者の情報保障『緊急時』に困ることって？」のプロジェクト委員会

※本書での表記・・・聴覚障害、身体障害などは「障害」、人を表す場合は、「聴覚障がい者」「身体障がい者」としています。

聴覚障がい者について

聴覚障がい者は、

その障害の状況や失聴時期、コミュニケーション手段の違いによって、次のように呼ばれることがあります。

- ・ろう者
- ・難聴者
- ・中途失聴者
- ・盲ろう者 など



ろう者



難聴者



中途失聴者



盲ろう者

コミュニケーションも、

日本語(音声、文字)を用いる人、手話言語を用いる人、そのどちらも用いる人がいます。また、声は出せる(喋れる)が、相手の声は聞こえない人もいます。

聴覚障がい者に 伝わりやすい対応

役所の窓口での嬉しい配慮

日本語(音声、文字)と手話言語での対応をご用意いただけると、とても安心です。



HPや書類などの問い合わせ先は電話だけでなく、メールやFAXの問い合わせ先を記載してください。

●お問い合わせ先

電話〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

FAX. 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

メール〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇@〇〇〇〇

マスクを取らなくても、これらの方法でも伝えることができます。

(筆談・透明マスク・フェイスガード・指差し・身振り・アプリなど)



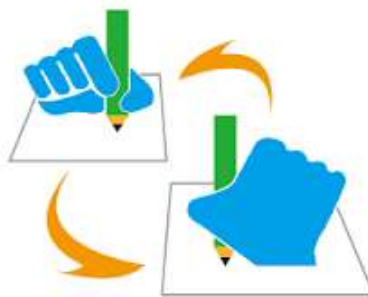
聴覚障がい者に わかりやすい対応

注文するときの嬉しい配慮

マスクを取らなくても、いろいろな方法があります。
(よく使う項目をイラストにして指差す方法もあります)



筆談マーク、耳マークが表示してあると、とても嬉しくなります。筆談用グッズがあるところも増えてきました。



筆談マーク



耳マーク

手話での対応ができる場合は、手話マークも表示されることもあります。



手話マーク

筆談マーク、手話マークは(一財)全日本ろうあ連盟のホームページから

耳マークは(一社)全日本難聴者・中途失聴者団体連合会のホームページから

イラストがあると外国人の方にも伝わりやすいですね。

感染症の流行で 聴覚障がい者は

コミュニケーションが大変に

実は、マスクを取って話していただくと嬉しいのですが、この一言がなかなか言えません。



マスクは感染防止の効果が大きいので、お願いしづらいですね。

マスクをつけた方とお話をするとき、聴覚障がい者は口の形や表情がわからないので、お話の内容がつかみにくいのです。



難聴者

表情が見えると、どんなお話なのか想像がしやすいのです。

手話では表情も文法なのです。口も見ながら手話も理解しているんですよ。



ろう者



中途失聴者

口の形でもお話がある程度わかります。読話(どくわ)、読唇とも言われますが、これが頼りです。

聴覚障がい者は 字幕と手話で

わかりやすく嬉しい配慮

テレビでは実に多くの情報が常時送信されています。日本語字幕と手話がつくことで、聴覚障がい者はその情報にアクセスできるようになります。



今日は「〇〇〇」について学びましょう。
次は、この問題です。

あまり知られていないことですが、一口に聴覚障がい者と言っても、コミュニケーション方法には違いがあります。



難聴者

歳をとって聞こえづらくなりました。テレビには字幕があるととても助かります。

私はふだん手話でコミュニケーションをしていますから、テレビにも手話があるとよくわかります。



ろう者



中途失聴者

30代で両耳が聞こえなくなりました。手話はわからないので、日本語字幕を頼りにしています。

字幕が画面の外に表示されるテレビもあります。

会見の内容を 聴覚障がい者は

手話と字幕で理解できている

首相や都道府県知事の会見は、住民に正確に伝わる
ことが大切です。聴覚に障害があってもそれは同じ
ことです。



新型コロナウイルスの感染拡大で、たくさんの方々がテレビでの会見を注目しています。



難聴者

感染のリスクが大きい高齢者には、難聴者も多いのです。とても心配なので、会見は毎回見えています。字幕が頼りです。



ろう者

手話で伝えてくれるニュースはまだ少ないのです。ですから、会見に手話通訳が付くことが大変必要です。



中途失聴者

私は声が出せませんから、耳の聞こえないことが理解されにくく、情報が少ないです。ですから、会見の字幕はとても助かっているんですよ。

47都道府県の

会見に手話通訳 が付きました

聴覚障がい者から「わかる」の声

新型コロナウイルスの感染が拡大し、都道府県知事の会見が始まった頃、手話通訳者を付けたのは11道県だけでした(2020年3月1日)。それが、今は全ての都道府県に広がりました。

そこには、マスクを付けない手話通訳者が登場しています。感染が心配されるのにどうしてでしょうか。



マスクで口と表情が見づらくなるからです

手話は、手の動き、形、向きだけでなく、顔の表情、口の形も要素とする言語です。聴覚障がい者は、①表情、②口の形、動かし方、③手や体の動き、形、向きで話を理解します。



「感染が拡大する」と「影響する」という日本語は、手話の手の動きが似ているため、区別しづらいのです。

表情と口が見えることで正確に理解できます。



イラストは、フェイスガード使用例。

手話通訳者への感染リスクを減らすため、別に撮影して、放送画面で合成する方法もあります。



これからも

情報保障には 手話と字幕を

両方で嬉しい配慮を実現

会見などでの情報保障は、手話と字幕が両方付くことで、わかりやすくなります。会見には手話と字幕が両方付くと、聴覚障がい者はその内容が理解できるのです。

高齢者にももちろんわかりやすくなり、嬉しい配慮です。誰も取り残さない情報保障をもっと広げましょう。



日本語字幕が付くことで、高齢者や障害がない人たちにも、情報が的確に伝わったとの声があります。

2011年の東日本大震災では、障害のある人の死亡率が、障害のない人に比べて、約2倍でした。聴覚障がい者は、情報がないことで被災した方が多くいました。(2013年内閣府)

新型コロナウイルスなどの感染症対策でも、正しい情報が届けられることが大切なのです。

手話通訳が付いて会見の内容がとてもよく分かるようになりました。ただ、手話通訳者が感染しない配慮もしてほしいです。



ろう者



中途失聴者

手話通訳は付いたのですが、字幕はまだまだ遅れています。私たちは日本語での情報がよくわかるので、今後期待しています。



難聴者

新型コロナウイルスの影響

実態調査結果

2020.03.05 ~ 2020.03.09



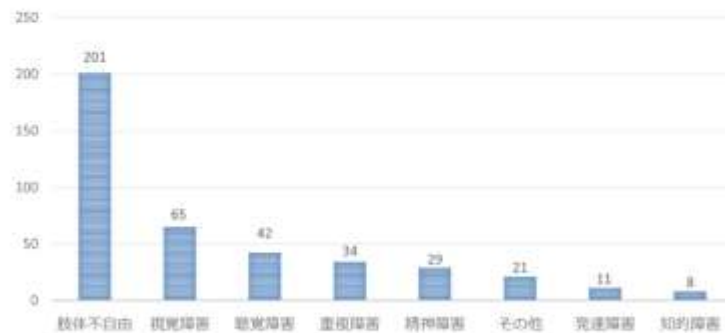
© 2020 Mirairo Inc.

回答者属性

・回答者の障害種別は以下の通り。 ※選択式

1/411

単位：人 回答数の分布（障害種別）



© 2020 Mirairo Inc.

項目	内容
概要・目的	新型コロナウイルスの流行に伴い、障害者がどのようなことに困っているのかを把握すると同時に、勤務形態の変化による課題を調査するため。
調査日	2020年3月5日（木）～ 3月9日（月）
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> ■ミライロ・リサーチのモニター会員 ■ミライロIDの登録者
人数	総回答数：411人
調査手法	Webアンケート

© 2020 Mirairo Inc.

5



新型コロナウイルス に関する定性調査

調査結果はこのQRコード
からもご覧いただけます

© 2020 Mirairo Inc.

Q1.ウイルスの流行に伴い、障害特性が理由で困った経験はありますか？ ※自由記述式

(n=236)

- 【身体不自由】
- ・車いすのハンドリムを必ず触るため、消毒してもすぐに汚くなっている気がする。
 - ・車いすの利用者で健康者よりも低い位置にいるため、咳や会話の飛沫が降ってくるのが、いつも以上に気になる。
 - ・手が不自由なため、マスクを外れた際に、自力で着用することができない。
 - ・さまざまなところで消毒液が用意されているが、車いすでは届かない高さに置かれていることが多い。
- 【視覚障害】
- ・日常生活では物を触って確認することが多いためこの時期特に心配である。
 - ・店舗にマスクの在庫など紙が張り出されているようだが、確認ができない。
 - ・前までは声を掛けたり手引きなどしてくれる人が多かったが、最近は警戒されているような感じがする。
 - ・周りの人がマスクをしているかどうか分からず、「着けるべきか」の判断がしづらい。
 - ・マスク越しの会話は、音が不鮮明で聞き取りづらい。
- 【聴覚障害】
- ・マスクをしていると会話ができない、外してほしいというと露骨に嫌な顔をされる。
 - ・問い合わせ先が電話しかない場合に困る。メールとかFAXでの問い合わせ先があってほしい。
- 【精神障害】
- ・どの情報が正しく、そうでないのか、パニックになってしまう。
- 【知的障害】
- ・ウイルスが流行している、という概念がわからずマスクの着用を拒否される。(保護者の意見)

在宅勤務・時差出勤・遠隔会議
についての調査

今回の調査を通して「障害を起因とするストレスや課題」が多くあることが分かった。

◆最も多かった回答は「マスクの使用によるコミュニケーションの悪化」 39件/236件

特に相手の口の形を読み取ってコミュニケーションを取ることも多い聴覚障害者は、自由記述に回答した者のうち約9割が「マスクをしている人が多く、口の形を読み取って会話することが難しい」といった内容で答えた。

しかし、その後続けて「状況が状況なため、外してほしいとも言いづらい」「メールが筆談をお願いしている」「透明なマスク、ルカミィの普及を切に願いたいと思う」といった意見もあることから、「外してほしい」という願望よりも、困ってはいるが各自できる範囲で対応している様子が見受けられた。

◆次に多かったのは「感染症の予防」に関するもの 27件/236件

この内15件は身体不自由者からの意見だった。中でも多かったものは「車いすのハンドリムを必ず触るため、消毒してもすぐに汚くなっている気がする」という回答だった。また、視覚障害者からも11件の回答を得ており、「日常生活では物を触って確認することが多いためこの時期特に心配である」という意見が目立った。

これはどちらも、自走用の車いすにあるハンドリムを使う人、つまり手動車いすユーザーと、物との距離や位置を触って確認することが多い視覚障害者ならではの回答であったと言える。また、これらの人からは「さまざまなところで消毒液が用意されているが、車いすでは届かない高さに置かれていることが多い」や「店舗にマスクの在庫など紙が張り出されているようだが確認できない」といった声も多く、感染予防についての不安がある一方で、予防がしづらい状況であることが分かった。

◆ミライイ社員の一言

回答の中には、「アルコールの設置位置を低くする」「筆談で話す」といった配慮があれば、すぐに解消できる課題も多く見受けられた。一方で「基礎疾患のある方にマスクを優先的に配る」「メールやFAXでの問い合わせ先を設ける」などの意見は、個人での対応は難しく、行政や事業者が意識することで取り組める課題であると認識した。

今回、調査期間が5日間と短かった中でも400名を越える方から回答を得られたことから、障害のある方々にとってこのウイルスは非常に大きな影響を及ぼしているということが再確認できた。また、同時に「困っていること」を世に出すことで少しでも現状を知ってもらうこと、そしてその上でできる範囲の配慮をしてほしいといった願いが伝わってきたように感じた。ウイルスに関しては配慮がしきれない部分もあるが、障害者と健康者、それぞれの多み寄りによってこの事態を乗り越えていきたいと強く思う。

就業状況について

Q2.現在働いていますか？（正規雇用/非正規雇用 問わず） ※選択式

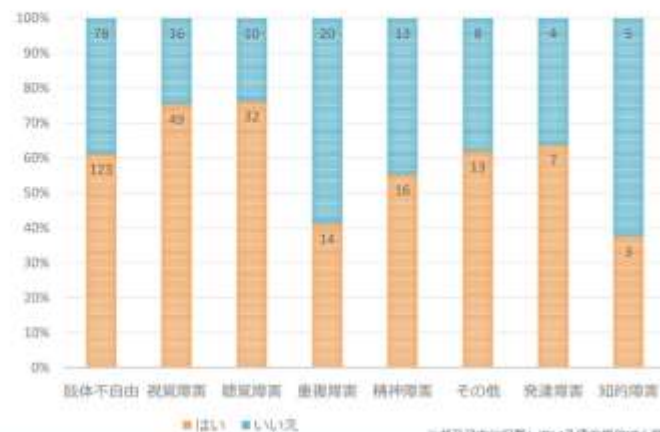
・現在働いていると回答した者は全体の約6割であった。

(n=411)

回答割合（全体）



回答割合（障害種別）



※グラフ内に記載している値の単位は人数

在宅勤務について

Q3.「在宅勤務」の制度を利用していますか？ ※選択式

- ・勤務先に在宅勤務の制度がある回答者は約4割であった。
- ・勤務先に在宅勤務の制度がある回答者の内、実際に利用している回答者は約6割であった。

(n=253)



※グラフ内に記載している値の単位は人数

© 2020 Pwco Inc.

在宅勤務について

Q4.「在宅勤務」に関して、障害特性が理由で困ること、または制度を利用しない理由がありますか？ ※自由記述式

(n=34)

【身体不自由】

- ・家では簡易的な車いすで生活しているため、長時間座ると体が痛くなる。オフィスでは外用車いすのため、体が痛くない。
- ・元々在宅ワークで働いているが、パソコン越しのコミュニケーションだと機能障害の理解をしてもらいづらく、できない仕事とできる仕事の区別を上司にってもらうことが困難。
- ・就労時のヘルパー利用ができないため、本来ならトイレ休憩や昼食どころかデレワーク自体もままならない。今のところは両親の全面サポート。

【視覚障害】

- ・どうしても視覚に頼らざるを得ない資料が必要なときに、周囲のサポートを受けられない可能性があることが懸念事項。
- ・ハードディスクを持たないタイプのパソコンにスクリーンリーダー（※1）をインストールすることが難しいため、これまで利用環境を整えられずにいた。また、セキュリティの関係で、在宅勤務で使用するパソコンに光学ディスプレイが接続できないことを確認しているため、在宅勤務になると、作業のスピードが遅くなり、できない業務が発生したりする。セキュリティの確保と支援機器での利用の両立が難しい。
- ・会社ではデスクトップを使用しているが、在宅では視線を低くしなければいけないノートPCになってしまうため、音や音が読める。画面も小さくなり、キーボードのブラインドタッチもしづらい。

【聴覚障害】

- ・電話の音ができないため緊急時のコミュニケーションが困難。
- ・電話会議が難しい。

【発達障害】

- ・コロナ対策により在宅勤務中ですが、平日の昼中に1人で自宅に居ると集中がなかなかできず、思うように仕事が進まないことが悩み。
- また、朝起きることが通勤していた頃より難しくなり、寝坊することが増えてしまった。

※1. 視覚障害者が使う、パソコン画面を読みとけるソフトウェアのこと

© 2020 Pwco Inc.

時差出勤について

Q5.「時差出勤（通勤ラッシュ時を避けた通勤）」の制度を利用していますか？ ※選択式

- ・勤務先に時差出勤の制度がある回答者は約5割であった。
- ・勤務先に時差出勤の制度がある回答者の内、実際に利用している回答者は約4割であった。

(n=248)



※グラフ内に記載している値の単位は人数

© 2020 Pwco Inc.

時差出勤について

Q6.「時差出勤」に関して、障害特性が理由で困ること、または制度を利用しない理由がありますか？ ※自由記述式

(n=29)

【身体不自由】

- ・ノンステップのバスの時間が決められていないため、時間をずらせない。
- ・公共交通を利用して通勤しているため時差出勤することによってバスの時間に影響することが考えられる。
- ・時差出勤すれば朝は楽ですが、慣りが遅くなるのも身体が読れる。
- ・自家用車で通勤しているため、許可が降りない。
- ・脳性マヒの影響で身体障害だけでなく、発達面もグレーだと診断を受けた。変化に動きを持っているため、時差出勤を利用していない。また、同様の時刻に外出することによって私的な支援も受けられているため。
- ・福祉タクシー通勤のため必要ない。
- ・自家用車で通勤しているため、許可が降りない。

【聴覚障害】

- ・介護短時間勤務のため対象外にされている。
- ・利用しない理由として、車通勤しているため。

【精神障害】

- ・基礎疾患も持っているため、自主的に出社していない。そのため今のところ給料なし、補償もなし。医療費だけは毎月かかるため困っている。何か補償がほしい。

【その他】

- ・通勤に影響が出るため。
- ・自家用車で通勤しているため。

© 2020 Pwco Inc.

遠隔会議について

Q7. 「遠隔会議（ビデオシステム/音声電話）」制度を利用していますか？ ※選択式

- ・勤務先に遠隔会議の制度がある回答者は約4割であった。
- ・勤務先に遠隔会議の制度がある回答者の内、実際に利用している回答者は約7割であった。

(n=248)

回答割合（全体）

回答割合（障害種別）



※グラフ内に記載している値の単位は人数

© 2021 Miras Inc.

13

勤務形態の変化について

Q9. 在宅勤務・時差出勤・遠隔会議に関してご意見をお聞かせください。 ※自由記述式

(n=124)

【肢体不自由】

- ・コロナのような感染症防止のためだけでなく、合理的配慮の1つとしても広まってほしい。
- ・今回のコロナに限らずこのまま在宅勤務制度が広がり障害者に限らず健常者も普通で利用できるようなレベルになると思う。
- ・在宅勤務、時差出勤を、大企業や正規職員だけではなく、もっと普及させてほしい。
- ・社内で私一人だけ、特別に在宅勤務を認められ、実質仕事から干されていくこともイヤ。なぜならば私の部署は仕事の特性上在宅勤務は不可能な仕事だから。

【視覚障害】

- ・このような制度が普及すれば、よりスキルのある障害者が社会参加が可能になると考える。
- ・障害によって在宅勤務がしづらいというのは改善していく必要があると思うが、セキュリティ面や、ハード面など、クリアするのは正直難しいと思う。

【聴覚障害】

- ・私は個人で仕事をしているが、もし企業に勤務していた場合、テレワークが一番不安。（電話ができないため、ちょっとした連絡などのやりとりがスムーズにできるのか、テレビ会議にどうやって参加するのか、など）誰もが平等に利用できる制度にしてほしい。

【発達障害】

- ・制度としてはとても良いと思うが、個人にはあまり合っていないなと感じているため、自由に選択出来るようなお良いのかなあと思う。

【重複障害】

- ・通勤でのストレスは大きいので、それが軽減されるなら喜んでしてほしい。

【その他】

- ・利用したいと思って障害者の場合、契約社員で雇用されることが多く、在宅勤務や時差出勤の制度を利用する機会になかなか取れない。

© 2021 Miras Inc.

14

遠隔会議について

Q8. 「遠隔会議（ビデオシステム/音声電話）」に関して、障害特性が理由で困ること、または制度を利用しない理由がありますか？ ※自由記述式

(n=25)

【肢体不自由】

- ・タイピングが遅いためメモを取りづらい。
- ・音から下の両手があるため、電話やビデオをしながらメモを取ることが大変なのと、長時間の会議となると身体への負担が大きい。
- ・大きな声が出しづらいため、テレビ会議では音声相手が相手に届きづらい。

【視覚障害】

- ・会議に使用するソフトが画面読み上げに対応しておらず、会議に出席するまでのパソコン操作が困難である。
- ・画像など「見る」ことができないのは遠隔会議と同じ。
- ・声だけの参加となるのだが、やはり多少聞きづらいところがあるのは事実。
- ・自分自身のパソコンでの利用をしたことがないため在宅勤務の指示が出たときにスカイプなどでの音声会議がうまく利用できるか心配である。

【聴覚障害】

- ・普段の会議では音声認識アプリを利用している。音声を文字化する形で情報保護を受けているが、遠隔会議システムと音声認識アプリの組み合わせがうまくいっておらず、困難を感じている。
- ・遠隔では何を言っているかわからない。
- ・音が悪くて聞こえない。画像が荒くて、口元が見えない。
- ・自分是对応できているが、環境によっては画像と音にタイムラグができ、余計にわかりにくくなる人もいると思う。
- ・ビデオ通話の方が音が聞きとれないし、音声のみの会議には参加出来ないのではと思う。

【発達障害】

- ・部屋が狭らかっているため遠隔会議をすることが少し恥ずかしい。

© 2021 Miras Inc.

15

在宅勤務・時差出勤・遠隔会議についての総括

Q.3~Q.8の調査では、制度があるのに利用していない人が多くいることが分かったが、Q.9では今後も制度の導入を希望する声が多く見受けられた。

◆制度の利用率や意見は、障害特性によって分かれた

在宅勤務の制度に関しては、視覚障害者から「パソコンの機能やセキュリティの問題」が多く上げられ、パソコン画面の読み上げ機能や電子ディスプレイとの接続などを使用している視覚障害者ならではの課題が目立った。

時差出勤を利用しない理由には、「自家用車で通勤しているため」という回答が多くあり、特に肢体不自由者は、電車通勤にはハード面の課題も多いことから自家用車での通勤を行っている方が多いことが予測できた。

遠隔会議は3つの制度の中で一番利用率が高かったが、Q.8の回答では多くの課題も挙げられた。特に視覚障害者と聴覚障害者からは、「聞こえづらい」「会話ができない」といった声が多く、これも見えない、聞こえないという障害特性によるものであった。

◆制度に対しては前向きな意見が多い 65/124件

Q.9では、在宅勤務・時差出勤・遠隔会議について自由な意見を述べてもらったが、124件の回答の内、65件はポジティブな意見。一方でネガティブな意見は僅か18件であった。Q.3~Q.8の調査では課題を抽出したため、多くの不満や意見が挙げられたが、これらの意見はあくまでも制度を導入する上での課題であり、制度自体にはポジティブな意見の方が多かった。特に、「合理的配慮の1つとしても広まってほしい」「よりスキルのある障害者が社会参加が可能になると考える」といった意見も多く、今後の制度の導入や改善への期待を感じた。

◆ミライロ社員の一書

これらの制度は、障害の有無に関わらず、求める人が多いように感じる。しかし調査からも分かったように、障害者には障害者ならではの課題も多くあるため、「一人一人に合わせた配慮ができるかどうか」が重要なポイントになると考えられる。

今後、コロナウイルスが終息した後も、「働き方改革」の制度として、多くの企業が本格的な制度の導入に向けて動くことが予想されるが、この機会にぜひ障害のある社員と向き合い、「何に課題があり、どうすれば円滑に業務に取り始めるのか」を話し合っていたらいいと思う。

© 2021 Miras Inc.

16



株式会社ミライロ

障害のある当事者の視点から、
誰もが暮らしやすいまちづくりを実現します！



【心のバリアフリーの取り組み】

- 障害のある当事者講師による講演（職員／市民／小中学生対象）
- バリアフリーまちあるきイベント
- 心のバリアフリー啓発冊子、マニュアル等の制作
- 情報保障（遠隔手話通訳サービス／UDトーク）

【ユニバーサルデザインのまちづくり】

- 公共施設、観光施設のユニバーサルデザイン調査
- ピクトサインの監修、デザインの提案
- バリアフリーマップの制作

NPO法人MAMIE（マミー）

「聴覚障害・聴導犬を広める」
「障害児の学ぶ場を」を中心に活動しています。



- 講演（ウェブ講演含む）・手話歌・聴導犬実演
 - 聴覚障害者理解のガイドブック制作・販売
 - 聴覚障害・聴導犬についての啓発活動
 - 聴覚障害者啓発のための舞台活動
 - 手話通訳の撮影・動画制作
 - イラスト・アニメ制作
 - 教室(パソコン操作・YouTube動画作成・イラスト指導等)の開催
- 詳細は、<http://mamie.jp> をご覧ください。

まだまだ 緊急時に困っていることがあります



MAMIEは、嬉しい配慮を実現するために
これからも取り組んでいきます。
引き続きお力をお貸してください。

この冊子の発行にあたって、聞こえる世界と聞こえない世界をつなぐ
ユニバーサルデザインアドバイザー松森果林氏から、
多大なご協力をいただきました。
感謝を込めて、松森氏の活動をご紹介します。

<ブログ> 松森果林UD劇場～聞こえない世界に移住して
<http://d.hatena.ne.jp/karinmatasumori/>
<Facebook>
<https://www.facebook.com/MatsumoriKarin>



令和2年(2020年)6月1日 発行

●制作/NPO法人MAMIE <http://mamie.jp> イラスト/安藤美紀
〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島3-20-8 新和ビル9階
TEL 06-6885-4141 FAX 06-7739-5360
Eメール mamie@mamie.jp

©MAMIE 禁無断転用・無断複製